

暁 瞑 ゆる

題字 盛生一郎(2期)

第1号

発行責任者 藤高道也

印刷所 ハイライフ印刷
株式会社

発刊のことば

支部長 藤高道也

同窓の皆様にはご健勝にてご活躍のこととお慶び申しあげます。去る7月14日、本年度の仁泉会広島県支部総会の席上、多くの先生方から「今後はできるだけ多数の同窓が総会に集まるようにしよう。そのためには肌理細かな同窓会活動をすることが大切だ。」といろいろなご意見やご提言がございました。これはいってみればすべての同窓の念願でもあり、また従来より幹事を引き受けた先生方の大変にご苦労のあったところでもございます。

新しく支部長並びに幹事を仰せつけられました私共の非力菲才が、同窓の皆様のご要望

によくお応えし得るか否か甚だ不安ではございますが、有能な先生方のご協力をいただきながら、仁泉会広島県支部の発展と充実に心を尽くし、私どもの任期を全ういたしたいと思っております。

総会後の7月30日に幹事会を開き、同窓の絆を少しでも強くするための一つの試みとして、先生方のご寄稿や総会記事、同窓の消息などを中心とした会報（年一回程度）を発行することにいたしました。中途で挫折することなく、息の長い会報に育てたいと思っておりますので、皆様から沢山の情報や原稿をお寄せいただきますようお願い申しあげます。

発刊に寄せて、ある回想

林剛吉(8期)

この度大阪医科大学仁泉会広島県支部の会報が発刊されることになった。伝統を誇るわが支部としては遅きに失した感はあるが、まことに喜ばしく、記念すべきことである。

歳月の流れは速いもので、私が支部長に推挙されたのはもう二十年も前のことであったが、ついこの前のような気がする。古い時代の同窓会の記憶を辿ることで、この拙文の責

を果たしたいと思う。

川島勝先生、真田博先生の支部長時代は、春秋二回、広島と呉で交互に会が開かれ、母校から恩師が来広されたら臨時に招集がかかって来たようで、二次会も活潑で、流川あたりに繰り出して大いにメートルを上げ、先輩の懐古談を拝聴したものである。

私が引き継いでからは、以前より会の世話

をしておられた三宅良州先生を中心に、小田吉成、藤高道也、中坪本治、山本治、大崎州、灰塚隆敏らのやる気満々の諸先生に役員を引き受けもらって、先づ支部会員の確認と名簿作りを手がけ、併せて会の綱領、組織といったものを作り運営を計ったのである。大きな問題は運営資金の集め方であった。それまでは、出席者の会費で宴会費を除く諸費用を捻出していたが、一部の会員のみが運営費を負担するのは不公平で、当然全会員が分担すべきものである。そこで文書で全会員の同意を取り付け、社保収入から年会費を引き去ることにした。これで多少財政も楽になったので、母校から恩師や、仁泉会役員を招聘して、医学講演会や学内事情を聞く機会を持ち、支部活動を充実するよう努力した。会合はでき

るだけ会員のレジャーの時期を避けて、二月第三日曜日に定着するようにつとめた。県北の会員からは、もっと気候の良い時期を望まれたが、私の任期中はこれで通したように思っている。しかし、広島市近郊の会員はともかく、東部や北部の会員には不便で、仲々総会に出席し難い点もあり、欠席の先生方にも会の様子を知らせてあげたいものだと、かねがね思っていた。

この度、本誌の発刊で会員の消息、意見、希望などがよく分かり、また夫々の意向を伝える場が出来て、会員一同の親睦を深め、会の発展に大いに役立ってくれるものと喜んでいる。

この会報の発行が永久に続くことを祈ってやまない。

昭和60年度仁泉会広島県支部総会記

時 昭和60年7月14日

場所 広島県医師会館

盛生一郎(2期)、林剛吉(8期)、久留島通尚(9期)、伊藤稻造(11期)、山本務(14期)、神田一郎(15期)、佐々木毅(16期)、小田吉成(18期)、三玉久雄(18期)、横山滋(19期)、藤高道也(20期)、頼島昭(学2)、伊藤良一(学11)、福永晶(学14)、佐藤滋(学21)、山下達博(学22)、高野明(学25)、高場憲夫(学30)、母里誠(学32)、田伏順三(学33)の20名の同窓と、恩師藤峰徹定先生、特別会員の梶川博先生(京大卒、大阪医大助教授を経て現在梶川脳神経外科病院長)のご出席を得て、先づ昨年の総会以降に物故された梶川重蔵(2期)、福原弘(2期)、宮地敬介(21期)の三先生のご冥福を祈って黙祷を捧げる。次いで幹事の交代を報告、旧幹事中坪本治(学4)、山本治(学5)両先生の労を謝し、新幹事の伊藤良一、福永晶両先生が紹介された。つづいて福永晶幹事より会計報告がなされ拍手をもって承認され

た。藤高道也支部長は挨拶に先立ち、来賓の藤峰徹定先生を紹介して大要次のとく歓迎の言葉を述べた。「先生は広島一中のご出身で、一高から京大哲学科に進まれ、昭和3年に大阪高医の足立文太郎校長に誘われてドイツ語、心理学の教授としてご赴任になり、昭和25年まで在職された。軽薄なものを拒否する先生の姿勢は、学生から頼りにされる反面煙たがられましたが、特に戦後の学園民主化斗争の時には学生部長としてご苦労が多かつたことと思います。今春帝塚山女子大をご退官になり、現在悠々自適の日を送っておられる先生を私どもの同窓会の名誉会員としてお迎えしたい。」藤峰先生は87才のご高令にもかかわらずお元気で(6階の会場までエレベーターを使わずに昇ってこられた!!)、「諸君にお会いできて大変嬉しい。夫婦ともども年をとり、諸君のお世話になることが多いと思う

仁泉会広島支部59年度会計報告

収 入		支 出		残 額
前年度繰越金	557,697.			557,697.
昭和五十九年度	年会費(開業医)	228,000.	総 会 費	415,040.
	年会費(勤務医)	21,000.	慶弔 費	91,200.
	総 会 費	300,000.	通 信 費	19,900.
	寄 付 金	20,000.	講 師 費	100,000.
	預 金 利 息	7,342.	雑 費	2,580.
	小 計	576,342.	小 計	628,720.
総 計	1,134,039.	総 計	628,720.	505,319.

次年度繰越金 ￥505,319.-

昭和60年7月3日

幹事 中坪・山本

がよろしくお願いする。」と近況を述べられた。支部長報告は、①昭和60年5月19日に出席した仁泉会基金運営委員会の協議について、研究助成費の申請件数及び金額が増加し、基金が充分に機能しているとは言い難く再度募金することが検討されているようである。そのことは別に、研究助成費申請の一覧表は、大阪医大各教室の研究の現況を窺うことができるとして資料を配布した。②前回昭和57年に名簿を発行して以来会員数の増加や移動があり、本年度の事業として新しく名簿を作ることを計画している。③今年古稀を迎える会員は、石原春夫先生(9期)と江木清史先生(10期)で、恒例により記念品をお贈りする。以上3点の報告が終って、福永晶幹事から最近の高槻の街並と大学の様子のスライドによる解説があり、伊藤良一幹事のカメラによる記念撮影で総会を終る。

懇親会は久留島通尚先生(来年古稀)の乾杯の音頭で始まり、各自学生々活をふりかえり、ユーモアを混じながらのテーブルスピーチが進行する。しかし今回の総会の出席

率が、総会員110名中20名とここ数年の最低を記録したこともあり、話題はどうすれば多くの会員が出席するようになるかという点に集中する。幹事としてはまさに身の細る思いである。やがて三玉久雄先生から緊急提案があり、「資金が少なくては活動は出来ない。年会費を値上げすること。但し、会計監査役を置くこと。」の2点が出された。出席者全員異議なく、協議の上開業会員の年会費を5000円にすることとして会計監査の人選については幹事に一任された。会計担当の福永晶幹事の嬉しそうな顔が印象的であった。その他、新入会員の歓迎会を兼ねること、広大に在局している同窓生をはっきり掴むこと、県東部で一度集まってみることなどの提案があった。最後に伊藤稻造先生により、藤峰先生のハンカチを拝借しての軽妙な手品が披露され、一同爆笑のうちに夏の陽もようやく西に傾き、林剛吉先生のリードで「暁映ゆる」を歌って閉会した。

(藤高、伊藤、福永記)

古稀会員のひと言

石原春夫先生(9期)

今般、古稀の祝をいただきましてありがとうございました。皆様のご活躍のほどお祈りしております。

江木清史先生(10期)

仁泉会の皆様には益々ご健勝のことと存じます。先般は小生の古稀の祝に立派な記念品をお贈りいただきまして恐縮至極に存じます。総会には欠席いたし失礼いたしました。小生も年なりに元気にいたしております。

会員消息短信

信原利道先生(2期)

昭和59年10月、広島市民病院で右肺切を受けられました。現在は診療を離れ、温泉に行ったりして気ままに生活しておられるとご次男の信原健三先生からお便りがございました。

た。(広大第二病理学教室ご出身)

神田一郎先生(15期)

28年間に亘り安芸津町の教育委員をしておられる先生は、昭和60年7月11日、日比谷公会堂で地方教育行政功労者として文部大臣表彰を受けられました。「旅費は自分持ちだったよ」と笑っておられました。

長尾進先生(15期)

三玉久雄先生のおしらせで、甲奴郡上下町の上下町立病院産婦人科にこの度勤務されたことを知りました。ご自宅は岡山市西大寺中1丁目9-2。(岡大細菌学教室、同産婦人科学教室ご出身)

木曾昭彦先生(学22)

八木敦夫先生からのご通知で、昭和59年より尾道市神田町2-24、木曾病院に帰られたことを知りました。(母校第一内科学教室ご出身)

灰塚隆敏先生(学23)

ご尊父灰塚実先生を援けるため、昭和60年4月、広島市中区基町18-4-4に灰塚医院

山本務先生(14期)

総会には地区医師会の旅行のため心ならずも欠席したが、ともかく喜寿まで看板だけは掲げているつもり。但し少々老令となり、往診もバイクを止めタクシーで隔日にしているとお便りがございました。

30年間勤務された放射線影響研究所をご退官になり、昭和60年1月から広島県腫瘍登録室長に就任されました。病理組織学的検査に提出する場合、摘出部位の記載、特に結腸ではそれが大切であるとコメントがございました

を開設されました。(広大寄生虫学教室ご出身)

松野堅先生(学23)

広島記念病院をご退職になり、昭和60年春より広島市中区幟町5-21、松野医院でご尊父と共に開業されると山下達博先生からおしらせいただきました。(広大第一内科学教室ご出身)

松田道雄先生(学27)

双三中央病院、原田病院を経て、昭和60年4月、まつだ整形外科を開設されました。広島市南区比治山本町1-20。(広島大学整形外科学教室ご出身)

大木正美先生(学28)

義父大瀬戸稔先生のご急逝の後を承け、昭和60年2月、広島市中区薬研堀10-14に大瀬

戸内科医院を開設されました。(広大第一内科学教室ご出身)

梶山加代子先生(学28) 旧姓松野

約2年間の予定でご夫君(世界銀行出向中)と共に渡米中。あちらでご出産されたと伊藤良一先生からご連絡がございました。留守宅は広島市中区幟町5-21、松野方。

横田博志先生(学30)

昭和60年6月30日をもって国立呉病院外科を辞し、阪大第一外科に帰局することとなりました。短い3年間でしたありがとうございましたというお便りをいただきました。新住所は大阪市阿倍野区松崎町2-3-37、松崎町グリーンハイツ509号。

業務日誌

昭和59年6月10日：昭和59年度仁泉会広島県支部総会(全日空ホテル)において、横山滋支部長が健康上の理由で辞任。代って藤高道也が新支部長となる。

昭和59年7月6日：宮地敬介先生(21期)ご逝去。後日県医師会速報で知り、香典と共に支部長から遺族にお悔み状を差しあげた。

昭和59年7月7日：仁泉会基金運営委員会規約第3条により、広島県支部長を委員に委嘱すると通知あり。任期は昭和62年3月まで。

昭和59年10月7日：大阪医大小児科学教室より名簿作製のため古い教室出身者の調査依頼あり。県内の小児科標榜の会員に電話で確認し、該当者なしと回答。

昭和59年10月8日：福原弘先生(2期)ご逝去。10月10日比治山善教寺にて告別式。盛生一郎、小野竜三、平野好朗先生らと共に支部長参列し、生花一対と香典を供える。

昭和59年11月21日：梶川重蔵先生(2期)ご逝去。11月25日広島県医師会館にて告別式。生花一対、香典を供えると共に、ご遺族の依頼により同窓会を代表して支部長が弔辞を捧げる。(広島市医師会だよりに掲載)

昭和60年4月12日：午後7時より『たか徳』において幹事会(藤高道也、中坪本治、山本治、伊藤良一、福永晶)。本年度の総会を広島県医師会館で7月14日正午より会費1万円で開催することに決める。案内状は6月中旬に発送予定。

昭和60年5月19日：仁泉会基金運営委員会（大阪市南区、『隨園』）に支部長出席。

昭和60年6月20日：仁泉会本部から『弔慰内規』によってお見舞を送りたいので、横山昌彦先生（5期）の療養状況について調査の要請あり、早速支部長よりお見舞状を差しあげ病状をお聞きして、仁泉会に該当する旨報告。

昭和60年7月3日：午後7時より『柴田』において幹事会。旧幹事中坪本治、山本治から新幹事伊藤良一、福永晶に事務並びに会計の引き継ぎを行い、総会運営について協議。

昭和60年7月14日：昭和60年度仁泉会広島県支部総会並びに懇親会を広島県医師会館で開催。

昭和60年7月17日：西忠之先生（14期）ご逝去。翌18日寺町超専寺にて告別式。林剛吉、田中三千穂、山本務、荒木秀雄先生らと支部長参列し、生花一対と香典を供える。

昭和60年7月30日：今年度から幹事を増員し、藤高道也、頼島昭、山本治、伊藤良一、福永晶、山下達博、高場憲夫の7名で会を運営することになり、県医師会館第三会議室で会合し、会報と名簿の発行を決め、その内容について検討した。

昭和60年8月2日：信原利通先生（2期）の療養状況につきご次男より連絡あり。仁泉会に『弔慰内規』に該当するので報告。

お・し・ら・せ

- 仁泉会『弔慰内規』第6条は、疾病のため2～3ヶ月以上休業する会員にお見舞を贈ることを決めています。療養中の会員の方、及び療養中の会員をご存知の方は支部長までご連絡下さい。
- 開業会員の年会費が5000円になりました。勤務会員は据え置きです。
- 投稿及び連絡先

〒733 広島市西区打越町12の8

藤 高 道 也

TEL (082) 237-4600

237-3403